

一般社団法人

香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部
事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1
四国医療専門学校 作業療法学科内
(一社)香川県作業療法士会事務局

URL:<http://www18.ocn.ne.jp/~k-ot/> E-mail:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp

「危機意識」— 新しい生活様式の中で、作業療法士は何が出来るのか —

松井病院 田埜 篤司

これまでの生活を一変させてしまった、新型コロナウイルス感染症。瞬く間に世界中へ拡大し、国と国、人と人との関係を分断した。今では、時差出勤、テレワーク、リモート会議、営業自粛、ステイホーム、ソーシャルディスタンスなど、以前と異なる生活様式を必要とする事態となった。国家も人も、これまでに築き上げてきたものが一気に崩れ落ちる現状に落胆した人は多い。1年前の今頃には想像もしなかった事態が現実になっている。だが、少しずつではあるが前進しているのも事実である。

国内に目を転じると、数年前より梅雨前線や台風による豪雨災害が多発している。人々の多くは何気ない日常生活が送れる事を願い、また永続すると期待して止まないが、これまでの経験や常識が通用しなくなっている。住み慣れた家を、財産を、そして仕事を無くし、また家族や知人を亡くし、日常を奪われた被災者に対し、我々作業療法士は一体何が出来るのだろうか？

日本作業療法士協会は、『ひとは作業をすることで元気になれる。』としているが、これまでの教科書通りのアプローチだけでは、被災された人々に対しては何の役にも立たないこともあると思う。このような場合、何を参考にするべきなのだろうか？

2011年に発生した東日本大震災における被災者支援の実例は、既に学会などでも報告されており、その状況についても関心を寄せる必要がある。災害は、いつ・どこで・誰の身に降りかかるか解らない。平穏な生活が永続することを願いつつも、不測の事態に対する意識を持っておかなければならない。色々な意味でも危機意識を持つことは被害を最小限にし、生活の再建にも役立つものと考えられる。

『一寸先は闇…。』という言葉がある。だが『明けない夜は無い。』という言葉もある。新型コロナ禍や豪雨災害など、難局の今こそ気持ちをしっかりと奮い立たせ、人々の健康や幸福に貢献できる作業療法士活躍のときではないのだろうか？

新型コロナウイルス(COVID-19)対策について

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が広がる中、医療業界でも様々な感染予防対策を行っていると思われます。香川県でも感染者が増加傾向であり、より一層感染予防対策が必要であると思われます。

感染経路

- ・飛沫感染：感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染することを言います。
- ・接触感染：感染者はくしゃみや咳を手で抑えた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触ると初するが手に付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染することを言います。

症状

●最もよくある症状

- ・発熱
- ・空咳
- ・倦怠感

●時折見られる症状

- ・喉の痛み
- ・下痢
- ・結膜炎
- ・頭痛
- ・味覚または嗅覚の消失
- ・皮膚の発赤または手足の指の変色

●重篤な症状

- ・呼吸が苦しいまたは息切れ
- ・胸の痛み
- ・言語障害または運動機能の喪失
- ・肺炎

(※ただし、人によって異なりますが、ほとんどの感染者では軽度～中等度の症状であり、入院せずに回復します。)

一般的な予防策

- ・手洗い（30秒）
- ・うがい
- ・3密（密閉・密集・密接）を避ける
 - ①密閉：密閉空間にしないようにこまめな換気
 - ②密集：他の人と2m以上間隔をあける（最低でも1m）
 - ③密接：密接した場所での会話や発生を避ける
- ・換気の実施（毎時2回以上：1回数分程度）

※風の流れができるように2方向の窓を開ける、扇風機や換気扇を使うことで換気効率が上がります。
- ・不要不急の外出の自粛
- ・アルコール消毒 など

【実際の現場での対策】

患者様・利用者様・施設側の対応・対策

- ・入院患者様、外来患者様の摂食を避ける。
(部屋を分ける、ベッドやテーブルを分けて実施するなど)
- ・定期的な換気。(1時間毎に5分程度)
- ・ベッドや治療器具の消毒、施設内の掃除
- ・作業テーブルにアクリル版を設置。
- ・面会の中止や制限。(時間や人数、年齢制限など)
- ・リハビリ前後での手指消毒。
- ・通所リハビリの利用者様には、お迎え時に検温を実施。施設到着後、手洗い・手指消毒の実施
- ・訪問リハビリの利用者には、熱発等あればあらかじめ連絡をもらう。
- ・受付にはビニールを貼り、飛沫を防止。 等



マスクをしよう

スタッフにおけるの対応・対策

- ・毎朝の検温。
- ・マスク着用必須。
- ・手指消毒。
- ・患者毎の手洗い。
- ・休憩時間の過ごし方の規定。(3密を避ける、対面で食事をしないなど)
- ・不要不急の外出の自粛。(他県への移動は、部署長へ報告など)
- ・朝礼や勉強会など大人数が一部屋に集まるような会の中止や見合わせ。
- ・体調不良時、出勤を控え自宅待機。
- ・家族内に発熱者がいれば休みまたは自宅待機。 等



換気をしよう

(※複数施設の対策をまとめています。)

【手洗い・手指消毒の方法、ポイント】

手洗いの方法

- ①流水でよく手を濡らした後、石鹸を付けてのひらをよく擦ります
- ②手の甲を伸ばすように擦ります
- ③指先・爪の間を念入りに擦ります
- ④指の間を洗います
- ⑤親指と掌を捻り洗いします
- ⑥手首も忘れずに洗います

※爪は短く切っておきます。時計や指輪は外しておきましょう！

《ポイント》

- ・手洗いは、しっかりと石鹸を泡立て1回15～30秒かけて行います。
- ・洗い残しの多い箇所：指先・親指・指の間・手の甲・手首
- ・手洗いは、清潔なタオルやペーパータオルなどで水分をよく拭き取り乾かします。

手指消毒の方法

- ①乾いた手に使う
- ②ポンプを最後まで押し切る（1回約30mlが目安）
- ③手の全体によく乾くまで擦り込む（20秒程度）

《生活不活発病を予防しましょう》

- ・生活不活発病とは、
「動かない」（生活が不活な）状態が続くことにより、心身の機能が低下して、
「動けなくなる」ことをいいます。

●予防のポイント

- ・毎日の生活の中で活発に動くようにしましょう。
（横になっているより、なるべく座りましょう。）
- ・動きやすいよう、身の回りを片付けておきましょう。
- ・歩きにくくなっても、杖などで工夫しましょう。
- ・「安静第一」、「無理は禁物」と思い込まないで。
（病気の際は、どの程度動いてよいか相談を。）



No.22

病院紹介

児童発達支援センター



伊藤 裕基

当施設は東かがわ市にあり、昭和55年から白鳥園総合療育センターが設立され、平成24年からは児童発達支援センターと名称が変更となり、現在作業療法士は2名が勤務しております。

業務内容としては個別療育を始めとして、市内の保育所・幼稚園・こども園へ訪問させていただき在籍している子どもたちの発達面や行動面等について相談を受けたり幼稚園教諭の方々の悩み等を聞いて話し合ったりしています。また、市と連携して1歳半児健診・3歳児健診・5歳児健診にも参加して発達が気になるお子さんの早期発見・早期支援を行うべく日々業務に取り組んでいます。

これからも利用して下さるお子さんや保護者の方々、地域の方々のニーズに応えられるように、また、お子さんたちの笑顔を増やせるようなサポートがたくさん出来るように自己研鑽に励みたいと思います。



先輩の声

No.42 医療法人仁寿会吉田病院
回復期リハビリテーション病棟勤務 辻岡 良
(9年目)



作業療法士国家資格を得て9年目となりました。当院ではご高齢の患者様の割合が多く認知症をはじめとする様々な既往が在宅復帰への障害となる中、ご本人やご家族の希望をどこまで実現できるかと日々シアンしています。

自分はまだまだ未熟だと思ってもいつの間にか後輩が増え、治療についての相談にのる機会も増えてきました。その時今まで学んできた知識や経験を上手く整理して伝えるということは非常に難しいことで、インプットした情報を自分なりに整理するには、日頃よりアウトプットする習慣が必要だと痛感しています。

そしてこれは一度作業療法士としての臨床を離れた経験があるため再確認できたことですが、こんなにも「ありがとう」の言葉をいただける職業はなかなかないということです。患者様とともに訓練を行い、できることが増え、一つ一つ壁を乗り越えていくことは何物にも代えがたい喜びであり、療法士の生きがいでもあると思います。しかし、感謝の言葉をいただけるということは非常にありがたい反面、患者様の期待に応えられるように日々向上心を持って職務に励む必要があります。

そしてこれからも入院し不安を感じておられる患者様に対して少しでも安心感や退院後へ希望を与えられるように、丁寧な説明や患者様目線での対応を心掛けていきたいと思えます。



No.43 香川県ふじみ園相談支援センター 鶴窪 彩子 (13年目)



香川県ふじみ園は、成人の知的障害者に対して、生活や就労などの多様な福祉サービスを提供している障害者支援施設です。

作業療法士の業務としては、施設に通所・入所されている利用者さんに対して、個別のリハビリや集団のレクリエーションを実施しています。その他に施設外の業務として、発達障害児への療育や発達障害者の相談・居場所事業、発達障害に関する地域支援体制強化事業等を実施しています。

これまでは、一般病棟でのリハビリテーションや訪問リハビリテーションに携わっていました。当施設に入職して3年目になり、作業療法士は1名です。医療から福祉へと環境が大きく変わり、制度やサービス、疾患のことなど一つ一つ学んでいく必要があります。介入の方法も模索している最中で不安になることも多くあります。その中で原動力となっているのは、目の前に関われる利用者さんがいる感謝と責任です。私がリハビリや療育をさせていただくことを選択できる方と選択できない方がいます。特にお子さんや重度の知的障害者の方はご本人の中で感じていることを言葉や行動にうまく表現できない方も多いです。一方的な関わりとならないよう、機能や言動の要因等の評価をもとにニーズや困り感に対してどのようなことができるのかということを考え、利用者さんに寄り添った関わりを心がけています。また、疑問に思ったことや解釈に悩んだ時は自分自身の中で解決しようとせず、職種や機関など関係なく色々な方とお話することで視点が広がり学ぶことも多いです。

毎日が勉強の日々であります。今後も作業療法士として関わっている責任と利用者さん第一の気持ちを忘れずに自己研鑽に努めていきます。



連載企画 6 第二弾

「運転再開にあたっての作業療法士の役割」

第 2 話

医療法人社団 和風会 橋本病院 宮川 友輔

運転と作業療法特設委員会では、2019年12月に「第1回情報交換会」を開催致しました。その中で、「運転支援を実施するにあたり評価やその基準を知りたい」との要望が多くあり今回はそれらについて簡単に紹介させていただきます。

現在、自動車運転の評価及び評価基準に関しては、明確なものが定められておらず、各都道府県の運転免許センター・自動車教習所・病院・施設によってさまざまな状況であります。日本作業療法士協会は「運転に関する作業療法士の指針」として①医学的機能（疾患・症状・全身状態・服薬状態）、②身体機能（視機能・運動機能・感覚機能）、③認知機能（視覚注意機能を中心とした高次脳機能・リスク認知・障害認識）、④運転に関する総合的機能（車の乗り降りや運転の準備に関する機能・ハンドル・アクセル・ブレーキなどの重要な機器の操作に関する機能）評価をする必要があるとしています。また、自動車運転評価において主治医・かかりつけ医の診断書を元に運転免許センター・自動車教習所等に情報の伝達を行うことが重要な役目だと思っております。



会 員 各 位

令和2年6月吉日

(一社)香川県作業療法士会
第22回香川県作業療法学会
学会長 松本 嘉次郎
(公 印 略)

第22回 香川県作業療法学会の開催について (ご案内とお願い)

拝啓 青葉の候、会員の皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じ上げます。平素は(一社)香川県作業療法士会の活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、香川県では、5月15日に香川県知事より香川県感染対策宣言の策定があり、新しい生活様式で3密を避けた対応などで、まだ安心した生活には戻れていない状況です。例年であれば第22回香川県作業療法学会の開催に向けて準備をしていく時期ですが、現状、運営が難しい状況です。今後、第2波が訪れる等の心配もあり、先が不透明ではありますが、学会長はじめ運営委員で協議した結果、予定通り令和3年1月に第22回香川県作業療法学会を開催する方向で進めております。

ただ、例年と同じような形式やプログラムは難しいと考えられ、通常開催を目指しながらもWEBでの開催なども検討しております。

また、感染拡大の状況によっては会員の皆様のご健康を第一に考えて、中止も視野にいれて対応していく予定です。会員の皆様には日々の業務等で大変な時期であると思っておりますが、学会の演題募集を行いたいと考えております。

本学会が会員の皆様の知識研鑽と学術向上の場として有意義な会にできるよう運営委員一同、取り組んでおります。今後も感染対策など万全の準備を行いながら、学会の成功に向けて努力してまいります。つきましては、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. テーマ 「香川県作業療法士会の歩み ～過去から未来へつなぐ～ (仮)」
2. 開催予定日: 令和3年1月17日(日) *時間は未定です(プログラムの内容によって変更します)
3. 会 場 : 高松国分寺ホール(香川県高松市国分寺町新名430番地)
4. 内 容 : 現在検討中 (WEB開催も検討)

*学会の開催内容の変更などが生じた場合には順次ご案内させていただきます。

*演題募集要項については、香川県作業療法士会HPやメール配信等によりご連絡させていただきます。

以上

<第22回香川県作業療法学会 運営委員会 事務局>
かがわ総合リハビリテーションセンター
リハビリテーション部 作業療法士 田村 篤志
〒761-8057 香川県高松市田村町1114番地
E-mail: kagawaot22@yahoo.co.jp
※お問い合わせはメールにてお願いします

第22回

香川県作業療法学会 演題募集のご案内

第22回香川県作業療法学会を開催いたします。つきましては、会員の皆様から演題を公募いたします。日々の成果や臨床場面の発表を通して会員の皆様の情報交換・意見交換の場となり、お互いに切磋琢磨できればと考えております。会員の皆様からの多数のご応募をお待ちしております。

1. 応募資格

一般社団法人香川県作業療法士会会員に限ります。

2. 演題の応募方法

必要事項を記載の上、学会事務局 kagawaot22@yahoo.co.jp まで申込をしてください。なお、申込みメールを送信後、2週間以内に返信がない場合は、下記の事務局まで連絡を行ってください。

【必要事項】

件名：「第22回香川県作業療法学会事前申し込み」

※ 迷惑メールと区別するため、必ず上記の件名で送信してください。

- ① 氏名（ふりがな）
- ② 所属
- ③ 日本作業療法士協会会員番号
- ④ 発表分野（身体・精神・老年期・地域・発達・教育・県士会分野等）
- ⑤ 仮タイトル
- ⑥ 連絡先TEL

※ メール返信は、申込みにて送信していただいたアドレスに返信させていただきます。

演題申込メ切：令和2年8月7日（金）

※但し、演題数が目標に達しない場合は申込み期間を延長する場合がございます。その場合はホームページ等に掲載いたします。

3. 問い合わせ先

<第22回香川県作業療法学会 運営委員会 事務局>

かがわ総合リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法士 田村 篤志

〒761-8057 香川県高松市田村町1114番地

E-mail：kagawaot22@yahoo.co.jp

※お問い合わせはメールにてお願いします

New!

リレーエッセイ⑨

指山 真希
(松井病院)池上 夏菜子
(高松協同病院)桑野 文
(生協みき診療所)

作業療法士になって早7年目に突入しました。回復期病棟、通所を経て現在は訪問リハビリで働いています。当事業所は三木町、さぬき市、高松市と広範囲にわたってサービスを提供しています。訪問リハビリに所属になった当初は自宅にお邪魔することに緊張することが多かったのですが、現在では実生活場面で練習できることや家族指導で介助負担が軽減し、利用者様やご家族様が笑顔になる瞬間が嬉しく、この仕事にやりがいを感じています。

最近ではコロナウイルスの影響で自粛ムードが高まっていますが、プライベートではロードバイクを購入し、暇があればサイクリングに出かけています。外から帰ってきたときは、手洗いうがいを徹底しておこなっています。いつまで自粛になるかわからない今、運動不足解消と手洗いうがいをしっかりしてコロナウイルスに負けないように頑張りましょう！



入 会

- 宮崎 貴充 (ブルースカイ松井病院)
白石 愛奈 (介護老人保健施設 まゆみの里)
湯浅 裕子 (永康病院)
桂 舞 (かがわ総合リハビリテーション事業団)
木村 紗苗 (NPO法人高次脳機能障害総合支援センター サンガ)
鈴江 美智 (香川大学医学部附属病院)
坂居 達貴 (独立行政法人地域医療機能推進機構りつりん病院)
佐々木実花 (しおかぜ病院)
小笠原 希 (赤沢病院)
楠橋 一弘 (総合病院回生病院)
中川まどか (高松赤十字病院)
西川 洋 (四国医療専門学校)
鶴身 香奈 (かがわ総合リハビリテーションセンター)
田中 幸子 (三宅リハビリテーション病院)
菊見 諒 (橋本病院)
多田羅弘人 (赤沢病院)
関 朱里 (橋本病院)
上野 遊太 (こころの医療センター 五色台)
木村 充広 (総合病院回生病院)

退 会

- 大津 操 (介護老人保健施設 みの荘)
山西 加奈 (介護老人保健施設 あやがわ)
菊見 育歩 (まるがめ医療センター)
中村 嘉美 (総合病院回生病院)
川上 裕子 (介護老人保健施設 観音寺ケアセンター)
伊丹 修平 (高松協同病院)
林 知子 (大寿苑 デイサービスセンター)



異 動

- 近藤 和美 (高松市立みんなの病院)
▶訪問看護ステーション Re Home
二川 真生 (デイケアおさか)
▶訪問看護ステーション Re Home
星川 凜太 (西山脳神経外科病院)
▶クリニック池田
河野万里子 (リハビリホームあすか 高松木太)
▶自宅
平田 鈴子 (介護老人保健施設 虹の里)
▶高松平和病院
久米健太郎 (高松市地域包括支援センター)
▶自宅
岩本 早織 (四国こどもとおとなの医療センター)
▶すくすくクリニックこにし
木村 紗苗 (NPO法人高次脳機能障害総合支援センター サンガ)
▶介護老人保健施設 ポタラの森



■ (一社)香川県作業療法士会ニュース No.80 ■

編集長：木村勇介 編集委員：水口未紅・安藤瑞基・村上太気・大島祐輝・細谷かぐや
金倉由美・田村綾香・宇佐川雄太・平尾芹奈・菊池英里